

2014.12.15発行

2014
12月
第52号

かい 海
よう 陽

公民館報



平成26年10月19日 大里八幡神社秋祭り

10月5日(日) 共楽運動会

海陽町共楽運動会が各公民館で行われました。
今年は、台風が接近し、川東地区・川上地区においては、翌週の12日に延期し開催されました。子どもから高齢者までたくさんの方が参加し、熱戦が繰り広げられました。
地域をあげての運動会だけにどのチームも手に汗握る闘いぶりでした。



どこへ行く～



さ～あ急いで!!



海部公民館



みんながんばって～



目がまわる



落ちるなよー



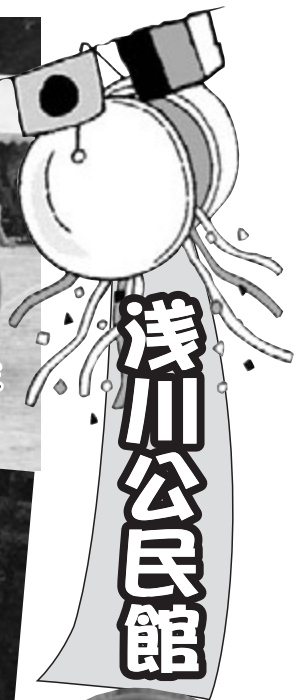
顔よごさんように



なかなか食べれんな～



大漁だ～





神野・若松



平井



神野・若松



小川



相川



平井



小川



神野・若松



相川



相川



小川





老いも若きもはじめはラジオ体操から!!



さあ、力を合わせて!
エンヤコラー!!



穴喰小唄で大きな輪ができました。



タイミングがむずかしい~



あんがい適当に
投げると入るのよね



みんなおまちかねの、抽選会!
当ててちょーだい!

10月5日に予定されていた共楽運動会が台風19号接近にともない中止となり、地区対抗ではないオープン参加のミニ運動会の開催となりました。200名をこえる参加があり大盛況でした。





歌唱

10月26日(日)

―海南会場―

第9回海陽町文化祭2014

芸能大会



二葉保育園



箏



合唱



民踊



バンド



詩吟



詩舞



バレエ



社交ダンス



阿波踊り

ー学生の部ー 11月8日(土)



穴喰中学校音楽部



海陽中学校ブラスバンド部



海部高校器楽部



海部高校ボランティア部 手話コーラス



海部高校郷土芸能部

「大喰会場」

11月16日(日)



大正琴



合唱



三味線



日舞



歌唱



箏



箏



日舞



舞踊



民踊



詩吟



作品展示

— 海南会場 —



写真



小・中学生俳句



絵手紙



書道



俳句



水墨画



絵画

フラワー展



小学生作品



陶芸



海部高校生作品

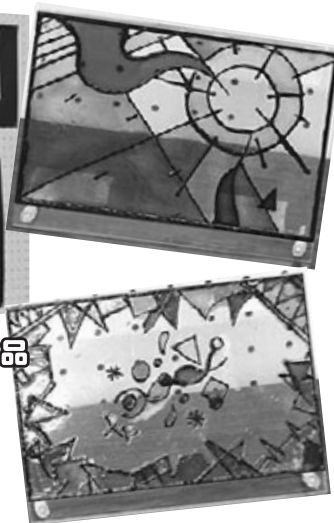


二葉保育園児作品

―海部会場―



海陽中学生作品



俳句



書道



絵画



短歌



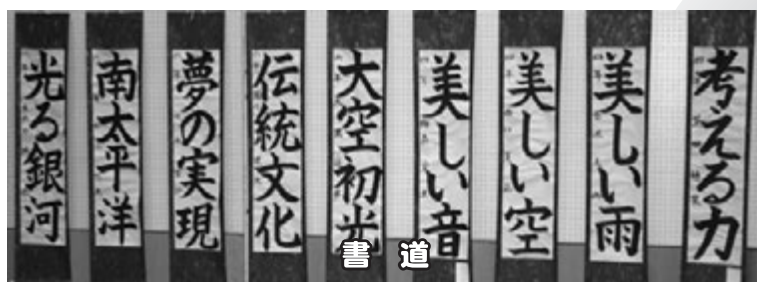
海部小学生作品



海部西保育園児作品

「穴喰会場」

写真



「人権力」で すみよい町に！

社会教育指導員 佐藤 和久

本年度の巡回分館人権学習会は10月8日から10月31日の間、29分館で行われました。夜間にもかかわらず、小さな子どもさんから80歳を過ぎたお年よりの方まで、役員を含めると476名というたくさんの方に参加していただきました。

研修の自身は、人権ボスターの標語を考えることと、DVD「ほんとの空」の視聴でした。DVD視聴に関しては、福島原発事故に伴う差別、外国人差別、同和問題、高齢者差別など、様々な人権課題について多くの意見を出していただきました。感想として、「とてもいい内容でした」「人権について勉強になりました」という内容の意見をたくさんいただきました。

研修の在り方については、「今のような研修を地道に続けていくことが大切」「話し合いの場を多く持つ」という意見が多くあった反面、「参加者が固定化されてしまっている」「講演会などでもいいのでは」という意見もいただきました。より幅広い年齢層に多く参加してもらう、マンネリ化を防ぐなどのことも考えて、より良い方法を探っていかなければと思います。

今回は、人権学習会の報告をさせていただきましたが、DVD「ほんとの空」視聴後の話し合いの中で出た、ちよつと気になる言葉を一つ取り上げて締めくくりにしたいと思います。

「普通でなくてもいい」

これは、主人公である母親が最後の場面で「普通でない」自分の息子（中学生）に対して抱いた気持ちです。主人公は、このとき幸福感に満ちていました。私たちは多くの人が、「普通」であることに安心・安堵の感情を抱きます。そして、「普通の生き方」「普通の幸せ」を望みます。ところが、「普通でない」状態になったり、「正常でない」「異常」とか言われると失望したり不安になったりします。

それは、「普通でない」ことや「正常でない」ことが集団からの排除につながりやすいからだと思えます。

ここに「普通」という題の一つの詩があります。

▼普通 深見桃子

日本では瞳は黒が普通、青ければ普通ではない／健康な人は健康であることが普通、心臓病

であれば普通ではない／少しでも普通でなければ変になる／普通とはなんだろう／普通とは、みんなと同じであることだろうか／しかし、みんなとはだれだろう／そう考えるともしかしたら普通というものはないのかもしれない

この詩から考えると、「普通」とは大多数の要素が強いということだと思えます。そして、「普通でない」ことは少数派であるとも言えます。また、この「普通」や「正常」という言葉は基準や意味があいまいだとも言えます。

自分が「普通でない」と感じる時に、人は普通にもどろろろという感情が沸き立つと同時に、普通でない人に差別感情を抱きがちです。

「正常だと思われたい欲望」を強く持つ人は、社会的弱者に対して嫌悪感や差別感を抱きやすいという研究者の指摘もあります。

主人公の抱いた「普通でなくてもいい」という考え方が通用する社会になるためには、多様性（いろんな特性を持つ

た人がいること）を受け入れ、認め合っていくことが必要だと思えます。普通でないことを排除しようとする社会、異質なものを認めようとしなない社会からは、新しい発想や豊かな文化、そして心の安らぎも生まれないのではないのでしょうか。

人権講座 テーマ：差別の歴史

近世日本において、どのように部落差別が起こってきたかを、「楽しい同和教育」でおなじみの住本健次氏の著書「差別と迷信」を中心に解説いたします。最新の研究情報もあります。参加ご希望の方は 海南図書館（73-3591）までご連絡ください。

申し込み締め切り 1月17日（土）

会場	海南図書館 2F	会場	穴喰図書館多目的室
日時	平成27年1月24日(土) 午前10時～11時30分	日時	平成27年1月25日(日) 午前10時～11時30分

※各会場とも定員10名程度です。

解説者 佐藤和久

穴喰俳句 十二月

秋の暮乗り換え駅にただ独り	梅田千恵子
秋日和三人寄れば病む話	元木栄子
狢犬が欠伸している神無月	新井駿也
役場から配りもの来て秋夕べ	阿津としみ
久に書く筆のすすまぬ夜長かな	中島 時
秋生まればかりの一家栗の飯	寺崎照代
角切りの林檎の試食直売所	鍛冶田 晟
尾花揺れ川面に夕日落ちにけり	樽井みつ子
かまきりを乗せて隣へ回覧板	中岡啓泰
雁渡る昨日の記憶忘れたし	山本球子
来た道は芒の向こう振り向かず	新井久実
パパママと呼び合う傘寿鮎鰯鍋 ^{あんこうなべ}	元木朱子
猪囲 ^{しがこい} ところどころが傾いて	間戸谷恵子
母とゆく同行二人秋の旅	外山千佳
秋出水土囊が町のあちこちに	川野佳代
運動会穴喰小唄輪のなかに	陸田ヨネ子
人の声してをり芒枯れはじめ	木下野生

海南俳句 十一月句会より

冬立ちて衣手隠す朝の堂	田村航也
フラメンコ舞姫躍動文化祭	橋本幸子
うち上がり一匹の河豚生きてをり	田中たち子
秋収め人形浄瑠璃掛かる村	叶岡陽二
弁当の出る句会文化の日	鍛冶崎郁夫
道真の秋思の詩や喜寿近し	岳山祐弘
柿熟れて鴉啼きあふ朝まだき	廣瀬克子
月冴えて人魚のいそうな波頭	森口豊子
鐘の音や散りゆく枯葉まとい来る	新居利之
まんじゅしゃげ母と歩みし散歩みち	西澤初江
山茶花やきびしい昭和生き抜いて	富田聞二
父と子の会話も弾む夜長かな	坂本節子
天高し宝さがして亀うさぎ	津川須美江
幼少の思い出廻る手の木の実	平道はつ子
万珠沙華朱き色には影のあり	山本達平
秋深し一灯に浮く無人駅	谷口洋根子
解くまでに柚子の実香る宅急便	武知陸子

海部ひまわり俳句

あと一つやり残しあり十二月	津田 一
長き影道に落として秋遍路	西本公明
漂泊の青き秋思や雲流る	榊原礼子
生姜湯を吹いて寝に立つ夜寒 ^{よさむ} かな	南 歌子
子ら「おはよう」台風一過のりこえて	松田嘉子
大根干す軒の日射しの明るさよ	元木美枝子
入院 ^{つま} の夫の看護よ秋時雨	佐藤美代子
絵手紙に花ホトトギス描いてみる	穴戸道子
缶けりの遊びの路地や鰯雲	岡 育代
菊日和ノーベル賞の祝い満つ	川野 照美
峠にも一村ありて秋うらら	福田敦子



海南短歌会

背負われて眠ったこともあつたろう眠りし母の小さき背を撫ず

蛭子美恵子

紫の花が好きだと言う人の楚々とした様いと雅なり

大久保スエ子

根を張って生きる草なりそのいのち憎むごとくに引き抜くわれは

土谷公代

稲架掛に一寸茜のトンぼ来て眼まなこかがやき休みていたり

桑村未貴子

かぎりなく小蝶飛び立つ気配にて空より青く露草咲くも

細野綾子

穴喰短歌会

かすかなる風に葉ずれの音たつる楠の梢の動き艶めく

大黒千枝美

舞ひ果てし風のなごりやとめどなく岩打つ波の飛沫かがやく

石井町子

現世うつしよの温もり深く抱きしめて過ぎし日恋えば波音やさし

山崎千栄子

晩秋の川に佇む白鷺を追ひつつ河口に朝日を拝す

桑野亀乃

ふつつと柚子の香りの広がりに重なる秋をこの手にぞ知る

舩谷恂子

遠き日の臨海学校なつかしき舞子の松今高速架かる

三野みよ子

古文書を夜ごと紐解き四半世紀現代いまにつながる史実に出合う

田井晴代

文化祭網代川柳大会より

大切に生きるスベアのない命

北川弥生

人は私は私マイペース

高木柳月

政治家の公私混同政活費

山本三久

物忘れ私も貴女も認知症

池田善笑

子離れが私にくれた広い視野

風呂谷いずみ

子の夢と親の夢とがかみあわず

中村あかり

夢一つ抱いて旅立つ青春譜

黒岩一平

薄らいだ夢に命をつなぎとめ

太田一洋

夢一つ抱けば余生もパラダイス

井上可楽

見かけよく品も味あり色男

福岡純山

幸せは目線下げると見えてくる

石垣小道

偏見を持った自分の恥を知る

椎崎日和



トピック

町指定有形文化財（考古資料）

とも うら かい しょう き
靱 浦 海 嘯 記



か えい あん せい
嘉 永 7 (安 政 元) 年
(1854)11月4日の大津波の記録碑。靱浦の旧海部川沿い、二葉保育園の向かいに、894文字にわたって、安政南海地震のことを彫り込んだ高さ1.68mの碑が建っています。それには高さ3.6mの津波が来たことが刻まれています。安政2年に高木宗矩(思風)によって記されました。
(碑は昭和2年建立)